



どうせ働くなら楽しい方がいい。

宇和島市 地域おこし協力隊

水野 裕之



地域おこし協力隊になるまで

私は、平成30年2月、宇和島市九島地区の地域おこし協力隊として着任しました。

前職はホテル業で、全国を転勤する生活をしていました。そんな私がなぜ地域おこし協力隊になったのか、理由は大学時代までさかのぼります。

当時、21歳の私は「将来は飲食店をしたい」と考えていました。ただ私がしたいお店は飲食だけではなく、「他にも楽しいと感じて貰う何かがある」とそんな場所にしたかったのです。ただ、その方法が分からなかった私は、現場でイベントの企画をたて実施までできると説明していたホテルに入社をしました。その企画を考え実行する経験は私の将来の夢に活かせるのではと考えたのです。

前職での沢山の出会いと経験を経て、今思うのは「また来たいと感じる場所」

を飲食店という手段で作りたいと考えています。その為には、食材、景色、場所も重要ですが、何よりも人が1番大事だと私は思います。人との良い出会いがあったとき、また会いたくなり、また来たいと感じます。九島にはそれがあって感じて移住しました。今は地域おこし協力隊という機会を活かして将来の夢を実現するために日々取り組んでいます。

着任してから

最初に活動の方向性を決めました。九島でも人口減少という課題があります。その為にはまず九島に来てもらう事、そしてまた来たいと感じてもらう事が重要だと思えます。知りたい島、行きたい島、住みたい島と繋がっていく活動にしていこうが必要ですよ。

九島でコンテンツを作り、かつ人と人のコミュニケーションを通して九島の特色に触れ、他では体験できないものにしていこう」と決まりました。

そして「九島にまた来たいと思ってもらう事」を目標に取り組んでいくことにしました。

これまでの活動

着任後、九島の認知度が愛媛県内でさえも低いという事実を知りました。当然県外の方はほとんど知りません。



マルシェ

そこで九島の認知度を上げるため、東京のマルシェにて九島柑橘の販売をしました。

他の柑橘類と差別化をする為、あえての枝と葉っぱ付きで収穫し九島ロゴのタグを付けました。更にタグの裏面には



マルシェ



QRコードで九島 Facebook ページに繋がるようにし、柑橘の育った環境が分かるようにしました。味だけでなく生産者の想いも伝わって欲しいと考えたからです。

販売した柑橘は好評で、九島を知らない人へ知ってもらおうきっかけができて、行ってみたいとおっしゃって下さる方もいました。

同時に味の濃い九島柑橘は東京でも十分通用するという事を改めて再確認することもできた良い機会でした。

その後、3月末には「清見タンゴール狩り×満喫とりっぷ」と題してイベントも開催しました。九島の清美タンゴールを自分で収穫し、ジュース作り、昼食は島の人と一緒に頂きます。そして最後は自転車で島を半周するといった内容で

す。収穫体験だけでなく住民との交流や農道散策、自転車でディーブスポット巡りと九島を満喫する企画でした。

市外からも参加していたので、結果は好評でした。自分で来ただけでは体験できない、住民との交流、農道の散策、ジュース作りなどを収穫体験と合わせることで、他では味わえないものになり結果につながったのだと思います。ぜひ次の柑橘シーズンにも実施したいと考えています。

今後の活動について

現在は九島の空き家を借りて、飲食店にすることに取り組んでいます。

お店の在り方としてはただの食事場所ではなく九島の食材を使用し、飲食を通してコミュニケーションを促せる場所にしたいと考えています。また、そこだけで完結するのではなく収穫体験やレンタ



収穫体験

サイクル、その他の島の魅力と連携し、結果として「九島にまた来たい」と思ってもらえればと考えています。

それらの想いを踏まえ、5月初旬には、「お掃除とりっぷ」と題して空き家の清掃イベントを実施しました。

当日は掃除の他に釣り体験や薪でご飯炊きなども行い九島を楽しんでいただきました。

参加者の方には、私の考えにも共感してくださり何より楽しいと言っていたので良かったです。一緒に掃除に取り組んだことで今後の空き家のゆくえにも興味を持って下さったと思います。

1人では決まっていたこと、はできません。複数人で協力するからこそ様々なことができるのだと思います。今後も引き続き九島に来た人が「また来たい」と思ってもらえるように多くの人と協力をして取り組んでまいります。



掃除イベント

